

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：向谷町自治会

開催場所：向谷四丁目公会堂

開催日時：平成 28 年 3 月 2 日（水）19 時 00 分～20 時 41 分

参加者：自治会側【地域住民の方 37 人】

市側【染谷市長、三浦秘書政策課長、高橋協働推進課長、秋山協働推進課課長補佐、駒形秘書政策課係長】

内 容

#### ① 伊東向谷町自治会長あいさつ

・向谷町自治会は自治会になって 10 年になる。私が先輩 2 人の会長さんに継いで 4 年経つ。後任も決まっているのでよろしくお願ひしたい。自治会になって何も進んでいないというのが実感。市長にも聞いてほしいが、公会堂の整備が進んでいない。ここに「いきいきサロン」という垂れ幕があるが、サロンの会長さんが他の町内の人も誘って頻繁にやってくれている。しかし、四丁目の人が主体で人数が少ない。そういうこと踏まえて、自治会運営を考えていなくてはならない。忌憚のない御意見を出していただいて、有意義な時間にしたいと思う。よろしくお願ひしたい。

#### ② 市長からの市政報告

##### ■危機管理課職員の不適切な事務処理について

本日の車座トークは、全 68 自治会をまわるうちの 8 回目となる。市の中心部から始めた。今日は、私からお話申し上げる前に、皆様にお詫びを申し上げなければならない。

今朝の新聞にも載っていたが、うちの危機管理課の職員が、行政の文書（課長決裁が済んで廃棄すべき文書）を市役所のシュレッダーにかけずに、何故か家に持ち帰り、かつまた静岡駅のゴミ箱に捨ててしまったということが発覚した。発覚したのが 2 月 19 日の金曜日。静岡中央署から電話をいただいて、急いで課長、課長補佐を行かせ確認させたところ、間違いなく市の書類だった。その場で回収したため、情報の流出というものはないが、危機管理課の職員が役所内でシュレッダーにかけなければいけない書類を何故持ち出し、何故、駅のゴミ箱に捨ててしまったのかという点については、文書管理の指導が行き届いていなかったということで、深く深く反省をしている。そうした中、この事件が発覚してすぐに、私としては 2 月 23 日の朝一番で、8 時 30 分に係長以上の職員を全部集めて、事件の報告を兼ねて、公務員として守らなければいけない意識の徹底、文書管理、職員が失敗したり困ったことがあった場合に、相談しやすい職場であること、危機管理は危機管理部、課だけの仕事ではなく、それぞれの職員一人ひとりが危機管理を徹底していかなければならないという話をした。かなりきつく、厳しく職員には話をした。2 月 29 日に処分の委員会を開いて、全国にも同じ事例があるので、そういったことも鑑みながら、本人には 10 分の 1 の減給、上司 3 人には訓告という処分をした。二度とこのようなことが起きないように、昨日から集中した指導、研修等も行っている。全職員を対象に行う。私自身も今後一層、職員の指導を徹底し、こういうことが二度とないように頑張っていきたいと思う。本当に申し訳ござい

ませんでした。

### ■はじめに

・私がどんな思いで市政を運営しているのかという、自分の政治信条のお話と最近のトピックスをいくつかお話して、その後、皆さんの質問にお答えしたり、御意見をいただいたりする時間にしたい。そのやり取りを、地域の特性や地域の魅力を活かすということで、これから総合計画も策定していくので、私の市政運営にも参考にさせていただき検討させていただきたいと思っている。

### ■市政運営について

・市長になってから3度目の春を迎えている。選挙に出るときは、「変えよう島田」ということを皆様に訴えて市長になった。その時には、市民病院の街中移転への問題等もあったし、様々に行政の課題がある中で、市が安心して次の世代により良い島田を残せる行政運営を目指したいということをお話させていただいた。市長になる時に4つの約束をした。一つは「公平・公正で、市民の声が届く市政の実現」、二つ目は「市政の透明性を高めるための情報公開」、三つ目には、これからの時代において島田市が単独で生きられる時代ではないことから、志太3市、あるいは中部5市2町、県といった様々な形での広域の連携というものを模索しながら島田の優位性を確保し、活性化させていくための「広域行政の推進」、四つ目には「財政の健全化」を目指すことで、右肩上がりの時代、人口がどんどん増えて、土地も高くなって、明日は今日よりも必ず給料も上がって良くなると思っていた時代には、行政はたくさん借金しても、次の時代でも税収が増えていく時代であったため（借金を）返すことができた。今、そういう時代を真逆から見るような、人口は減少しているし、この30~40年の間は日本の人口が増えることは難しく、減っていく一方である。高齢化がすごく進んできていて、少子化も進んできて、働く人の割合が今65%くらいいるが、これが働く人の人口が全人口の半分くらいしかいないという時代になると、税収を増やす、稼ぐ努力はいっぱいするが、それだけではなくて、今、生きている我々は、今生きている時代の必要なことは、自分たちの時代で何とかしていこうやという基本的な姿勢がないと、将来に負担を残すと次の私たちの子どもや孫の時代に、自分たちの考えで新たな投資、事業をやりたいよといっても、市が財政難でそれもできないという街になったら、若い人は魅力を感じない。住んでくれなくなってしまう。そのためには、中長期的に安定した島田をつくっていこうよということで、「財政の健全化」を目指すということをお話した。

・市長の役割は、これまでの時代は、市長は任期の4年で、どれだけのことをやるかという評価だったと思う。もちろん4年間で何をやるかは大事。しかし、それだけではなくて、10年先の島田、20年先の島田のために、今何を選択するかということも、これからの市長の大きな役割だと思っている。

・そうした4つをお話しながら市長になったが、それ以外にも自分の役割があると思っている、一つ目は選挙の時に、「変えよう島田」といったくらいなので、一度いろいろなことをリセットしてチェンジしますよということで、例えば病院の街中移転というようなものも、今の野田のところ建てようとしているが、そういった大きな方向転換をさせていただいた。その他、広域行政で出来なかったこと、例えば消防の広域化などもこの3年の成果としてお話できることかと思う。二つ目は、「市民の手による市民のための市政」を実現したいということ。皆さんも良く御存知の森昌也先生、昭和28年に島田の市長

さんになられた。この昭和 28 年に（市長に）なられた時に、「市民の手による市民のための市政」を実現するというをおっしゃった。これはたぶんリンカーンが言った「ガバメント・オブ・ザ・ピープル・バイ・ザ・ピープル・フォー・ザ・ピープル」という言葉を引用されたのではないかと思う。20 年間市政を運営し、昭和 48 年にお辞めになる時に、自分はこの街を量的に発展させてきた。市民会館もできたし、市役所もできたし、大きな道路もできたし、紀文、ネスレ、クノールなどの企業誘致もできたけれども、本当にこの街に住む人の幸せは、量的な発展の上に質的な発展を遂げた街なんだということで、質的な発展とは何なんだということを考えてもらいたいというメッセージを残された。「島田は小さな街であっても、キラリと光る国際都市なんだ。」ということもその時にお話されている。まさにこれからの時代、森さんが昭和 28 年に市長になってからちょうど 60 年目に私は市長を受け継いだ。森先生の時代を真逆から見ると、森さんの時代は右肩上がり、どんどん時代が変わっていく時だった。私はその真裏から見ると、どんどんと下降方向にある、そういった人口減少の時代に後を引き継いだ。そうした中で、もう一度「市民の手による市民のための市政」、要するに、ここに住民たちが自分たちの地域をこう変えていきたいんだ、こんな課題があるから自分たちはここまでできるんだけれども、行政も一緒にやってくれたら、もっとこんなことができるというような、市民一人ひとり、我々（行政）も一緒に汗をかいて、この大好きな島田のために自分は何ができるかということも考えていただいて、一緒に街をつくっていききたい、これが私の 2 つ目の強い思いであり私の役割だと思っている。

・ 3 つ目は、私は政治の基本は何だろうといつも考えるときに、やはり根本にあるのは、「ここに住民の命を守る。」ということだと思ふ。ここに暮らしている人たちの生活を守ること。弱い立場にいる人が安心して暮らし続けられる、そういう島田をつくるということだと思っている。市内は今、高齢化率が 29% だけれども、この高齢化率も増えてきていて、年金暮らしの方も増えてきた。高齢者のひとり世帯も増えている。未婚化、晩婚化が増えて若くても一人の世帯が増えている。人口は減ってきているが世帯数はまだ伸びているというのが今の島田の現状。

・ ちなみに世帯数は、36,500 あり、人口は 10 万人ちょっと。

・ そういう状況の中、この向谷でお話すると、世帯数は昨年の 12 月 31 日現在で 501 世帯、人口が 1,377 人、65 歳以上の高齢者が 386 人、高齢化率は 28.0%。島田市の高齢化率は 29.0% なのでいくらか低くなっている。子どもの数（15 歳以下）は 206 人で割合は 15.0%、島田市の平均が 13.8% なので子どもの数はよそに比べれば多いかなといった数値となっている。そういう意味では、若い人たちが住みやすい地域であるといえる。買い物も便利で、コンビニもたくさん走っているし、よその地域に行くと本当に困っている様々だが、ここはほとんど何も問題がないという地域でもある。

・ この街で住み続ける、安心して仕事があり若い人が結婚し妊娠し出産し子育てができる、そういう街をつくっていくということが私の一つの使命だと思っている。

・ ですから、先ほど社会的に弱い立場の人の生活を守ることと、様々な市民生活を守る中には、医療、介護、教育、福祉、子育て支援も、どれも一生懸命やっていかなければならないけれども、特に子育て支援や若い人たちへの支援は力を入れていきたいと思っている。

・ もう一つは、これからの時代の若い人を育てたいと思っている。これはすぐに結果が出るものではないが、まちづくりを考えるときに、20 年先の島田を考えるときに、20 年先も現役でいる人たちを巻き込んでいかなかったら、本当の意味で島田は変わらないと思っている。市役所の委員会や審議会には、50 歳以下の方を半分入れるようにと、まちづくりに関することは若い人たちをとにかく、今まで少なかった若い人たちを入れるようにしている。それから、

若い人たちには、まちづくりのための企画書等を出してくれれば、様々なことに支援できるよというお話もしている。実際、28年度からまちづくり支援事業交付金というものがこれまで、1年度限りのもので、10万円ないしは30万円のものではあったが、これを6年間みることに制度を改める。ホップ・ステップ・ジャンプで2年ずつ合計6年。1年限りだと、イベントとかお祭りの補助にしか使えなかった。しかし、6年みるということで、そこで人材を育てたり、何かの事業をここで興すことができるのではないかと思っている。こうした地域課題が、どんな課題があって、どう解決したらいいかということ、是非、皆様と一緒に考えていきたいと思っている。

・一つ例をあげると、湯日小学校、初倉の小さな小学校で全校児童で30人ちょっとくらいしかいない。複式学級をやっているところ。そういうところであっても、働くお母さんが増えて、小学校1年生が放課後児童クラブに行かなくてはいけないということになった。一番近い小学校の初倉南小学校まで5.5kmある。歩いていかせるわけにもいかない。だからといって行政がタクシーで運ぶというわけにもいかない。地元の方に御相談したら、自治会長さんがまとめてくださって、いいよ、帰りはお母さんが迎えに行くんだろ。学校が終わって送るだけなら毎日ボランティアが自分の車で送っていくからという話をしてくれた。行政はそれに対して、車をお借りする代金、ガソリン代、ちょっとした人件費という金額をお支払いしている。このように、お互いがやれることを合わせたら、色々なことができるのではないかと思っている。湯日地区は子どもを預かる放課後児童クラブというものを自治会でやろうということを考えている。また、ある地域では、コミバスが来なくて高齢者を病院に連れて行けない、買い物にも困っている。どうすれば高齢者を病院まで送っていけるのかという方法を考えている自治会もある。もしも地元の方たちが、ボランティアで運転手をしてくれるなら、行政は車を提供したり、保険をかけたり、ガソリン代を出すこともできる。ただ、お金を取ってやってしまうと白タクになってしまうので、お金を取らないでやってもらわなければいけないが、市民の皆さんが、うちの地域の課題を解決するために、そういうことをやってくれるのであれば、お互いに知恵をしぼり、お互いが汗をかいてこれからのまちづくりをやっていききたいと思う。

・小中学校も老朽化して、15校あるうち、ほとんどがあと10年もすると建替えなければならない。合併を重ねて公民館や施設等も3倍持っているものもある。そうするとどれも長寿命化、あるいは更新しなければいけないといったことが迫ってきている時代。新しいものを造ると同時にこれまであるものをメンテナンスしながら使っていくと、まわっていく時代になっている。これは、橋も道路も建物もみんな同じ。そういう時代の変化を、是非、皆様方に御理解いただきたいと思う。

・先ほど来、時代の変化の話をしているが、これからの街のために、何をやるのだというときには、先日も新聞で報道したような、金谷インター周辺の「賑わい創造事業」であるとか、牧之原台地に5.5haの金中跡地があって、これをアイデアコンペでやっている。県と一緒に、ここに何を造っていくかということ、事業化して、民間の力を借りて開発をしていきたいということも考えている。

・この市内でいうと、観光を是非、産業に育てたいということで、川会所あたりの河原町もそうだし、蓬莱橋のところには長いこと番小屋しかないという中で、あそこのところにお休み処や物品販売所が造れないかということで、今、国土交通省とも協議をしながら、規制緩和や地元の協議会を組織して立ち上げれば、そういったことも認められるということで、平成28年度は当初から協議会を立ち上げ、早ければ28年度の末、そうでなくても29年度から蓬莱橋のところ、お休み処や物品販売所を造れるというふうに考えている。こういったことを、皆様の御意見を伺いながらこの街を変えていきたいと思って

いるところである。

#### 向谷町自治会の公会堂の整備について

・公会堂というものは、基本的にそれぞれの自治会（町内会）が長い間貯金をしたり、お金を貯めながら造るということになっている。島田市の場合には、人口規模にあわせて、基準の床面積がある。その床面積に㎡当り 154,200 円を掛けたものの 3分の2以内のお金を出すということになっている。この向谷は、600 世帯以下というところに該当するので、補助限度額は 960 万円となる。残りの部分については、地元との方々の積み立ててやっているところがほとんどで、去年（昨年度）、花みずき中央自治会は、土地を買って、建物も建てるということで、1億数千万円の事業をしたと思う。そこに補助金として出たものは、1,000 万円ちょっとだったと思う。1億円のお金を、自ら貯金をして実際は建てている。花みずき中央自治会は土地を新たに不動産屋さんから買っている。土地も建物もほとんどの自治会は、自分の持ち物としている。たまに地元の方の土地を借りていたり、神社の所有地に建っていたりということはあるが、例えば法人格にするときには、そういったものも自治会の名義に変えたりしている。

・実際に各年度ごとに、何軒か公会堂を建て直したいよという要望があがってくる。多い年には4、5軒の年もある。おととし 26 年は4軒あったが、27 年は2つの町内会、神座のほうだった。28 年は2つの町内会が公会堂を建てる予定となっている。このように、協働推進課の方では、今後公会堂を建てる予定があるところの調査をしている。また、時期は決まっていなくても建てたいというご要望があれば、補助金のお話とかのご相談もさせていただいている。公会堂の建て直しについては、協働推進課を通じてご相談いただければありがたい。

・自治会長さんからは、第一保育園の土地を使って向谷の公会堂を建てられないかというお話をいただいている。この件については、実は第一保育園は今のところ閉鎖する予定はない。今、待機児童が増えていて、平成 29 年度に待機児童をゼロにするということで、私としては、何とでもゼロにしたいという思いでやっている。28 年度も第一保育園は職員室や休憩室といったものを保育室に改良して、校庭に職員室を建てるというほどの改良をして0歳、1歳、2歳という待機児童のいる部分を手当てしたいと思っている。このように、第一保育園を自治会の用地にというご相談をいただいているが、それはなかなか難しいかなと思っている。

・向谷二丁目のところに、市営住宅の跡地がある。あそこのお話をいただいた場所である。しかし、あそこはこうした待機児童が大変多くなってきていて、働く親はどんどん増えている。子どもの数は減っていく。幼稚園に行く子も減っていく。しかし保育園に行く子はどんどん増えている中で、あの向谷の住宅の跡地に、新しい保育園を建てたいと思っている。これは市が土地を提供して、民間の保育園に上物を造ってもらって運営してもらおうということだが、ここは2歳未満のお子さんを預かる保育園として、60 人定員くらいで造りたいと思っている。今、待機児童は 45 人。3歳以上はゼロ。赤ちゃんのところだけが待機児童となっている。0歳児が 21 人、1歳児は 18 人、2歳児は 6 人というようになっている。特に、この旧島田市内は、20 人ほど今赤ちゃんが待機児童がいるという状況。こういうことを、とにかくお母さん達が安心して働けるように、待機児童のゼロを目指して、向谷二丁目の市営住宅の跡地は保育園を造りたいと思っている。この件について、自治会長さんの方からは、ご相談がなかったということで、お叱りをいただいて、申し訳ありませんでした。もともと市の土地を公会堂用地にすることは、これまでもほとんど事例がなく、私どもとしては、何としても待機児童ゼロを目指すこと

のほうにこの土地を使わせていただきたいということ。是非、28年度の終わりまでには何とか着手したいと思う。受ける保育園は決まっている。今、県、国への手続きが進んでいる段階。国の認可が下り次第、造っていくという状況になっている。待機児童の解消が喫緊の課題であるということで、御理解を賜りたいと思っている。

・先ほどお話した花みずき中央自治会は20年以上、公会堂（自治会館）のお金を貯め続けて、やっそこぎつけたということで、「感無量」ということをおっしゃっていたが、どの自治会も公会堂を建替えるのは大変なことである。

・自治会長さんからは、1丁目から4丁目まで合併して、その合併した自治会に対して手当てがないのではないかとというようなお話も質問としていただいた。10年ほど前に、自治会の再編があったのは平成18年だが、この時に市がくっつけて自治会を再編したのではなく、当時の「島田市町内会長連合会」、金谷の連合会、これが合わさって自治会の再編について話し合っ、その時に当時の町内会長連合会で5つのことを決めている。・小規模な町内会をブロック化し、自治会組織を目指す。・一定規模の町内会はそのまま自治会へ移行する。・町内会組織は当分の間そのままとし、役員構成や会計・活動等は従前のとおりとする。・自治会ごと、自治会長を選出する。・実施期日は平成18年4月1日とする。合併した自治会には、1町内会あたり25,000円で、向谷の場合には4つの町内会が一緒になっている。一つのところに3つが統合したということで、75,000円という加算を平成18年度以降、毎年この自治会に加算をしている。こうしたことは、町内をまとめて自治会になったところには、市内全域、同じように手当てをしているという状況であるので御理解をいただきたい。

・確かに公会堂が狭くて全部が入れないよ、この街の中にはコミュニティの大きな施設がないよというお話も課題でいただいている。旧島田市内は、だいたいどこもそういう状況で、公民館が地域にあるのは、六合、初倉、金谷だけで、あとは大津の農業環境改善センターとか、伊久身の農業環境改善センターとか、北部ふれあいセンターとか、こういったものが類似公民館としてある。この街の中に活動の拠点がないということは以前から課題となっており、地域交流センター歩歩路に28年度からは、今よりもっと地域の方々に使っていただける、市民活動に使っていただける部屋を増やして、自由に使っていただけるようにしていきたい。少しずつではあるが、皆様が集れる場をつくっていきたい。

・今、4町内それぞれにある公会堂を一つにまとめるのは大変だという地域の課題は分かるが、場所を探す、建てるということについては、どこの自治会も、入念な準備をしながらやってきているので、是非皆様に話し合っ、いつごろまでに建てるのか、どれくらいずつどれくらいの期間貯めれば建てるのかどうかを検討して、確か宝くじの補助金もあると思うので、様々な補助制度を使えるものは全部使ってというご相談等は、しっかり行政の方で対応するのでご相談をいただければありがたい。

#### 浜岡原子力発電所について

・島田市はUPZといって、浜岡原子力発電所から31km圏内というところにある。市役所が原発から直線で23kmくらいなので20数kmあると思う。地元4市は、既に立地4市が中部電力、静岡県と安全協定を締結している。しかし、それ以外の7市町は中部電力と安全協定が結べていない。今、安全協定を7市町が中部電力と結ぶための交渉を県と一緒にやっている。今、再稼動を認めるかということについて聞かれるが、市長の使命は、市民の命を守ることだ

と先ほどお話しした。今の状況で再稼働して、市民全員を安全に避難させる方法、地震と原発事故が一緒に起こる災害の場合の避難計画が、これで万全かということ。避難計画ができて、例えばバスで逃げるといっても、バスが本当に手当てできるのかということも難しい課題であり、そういうことを考えると、今、住民の安全が確保されているとは言いにくい状況の中において、再稼働を認めることはできないと、これは一貫して議会でも答弁させていただいている。中長期的には廃炉すべきということを思っているが、新たな技術革新、再生可能エネルギーもものびてきているので、今、電力不足にはなっていないので、再稼働は認めないという方針はこれからも、状況が変わらない限り訴え続けていきたいと考えている。

#### ■新病院の建設について

・平成 28 年度は基本設計に入っていく。3月13日（日）午前9時から「みんくる」で、市民の皆様や議員の皆様にも来ていただいて、新たな病院のコンセプトや考え方、これからできる病院のかたちというものを皆様に聞いてもらいたいと思う。今、全国から病院設計で名だたる業者が手を上げて、一次審査が終わって6社が残ったところ。この6社がどういうコンセプトで、これからの病院を考えているのか。どういう提案があるのかということ、さっきお話しした情報を開示するという事の中で、どの会社もこの基本設計をプレゼンテーションするまでに、300万円から500万円のお金をかけて準備をきている。一社あたり50分から1時間くらいの持ち時間になるので夕方4時までかかる。是非御都合のつく時間に来ていただいてこれからの病院ということと一緒に考えていただけたらありがたいと思う。

・病院は上物を建てたからといって安全とはいえない。今、445床で247億円くらいの予算規模で建てようと思っているが、そこに十分な医師が集らなると病院の経営は苦しくなるし、市民の皆様にとっても、安心のよりどころにはならない。今、医師の確保に全力を尽くしているところ。

・一方で、市内の開業医も高齢化してきていて、島田の医師会に41人のお医者様がいるが、息子さんや娘さんが後継ぎとして帰ってきてくれない。みんな息子さんや娘さんはお医者さんなんだけれども、がんセンターで働いているよとか、大学病院にいるよとかいう人ばかりで、あと5年経ったら往診に来てくれる先生も少なくなってしまう。そういう現状がある。

・このことから、新たにここで開院していただけるお医者様の支援ということも考えていかなければいけないと思っている。

・まさに医療の環境を充実させることは、「市民の生命線」。市内には、他に入院できる病院がない。したがって、市民病院の充実には力を入れていきたい。

・実は、この市民病院の建設の話は、平成19年からずっとあった。平成19年、21年、23年、25年の街中移転の話まで色々紆余曲折があった。しかし、今チャンスを逃すと、新しい病院を造ることは難しくなると思う。実際築35年で建物の外観は大丈夫だけれども、中の配管等が大分痛んでいて、いきなり天井から水が漏れたり、メンテナンスしていても起こるとというのが現状。今、一生懸命頑張っても、病院が完成するのは平成32年度ということになる。

・何としてでもこの病院の事業は、順調に進捗するように頑張っていかななくてはならないと思っているので、御協力をお願いしたいと思う。

■医療制度改革への対応（地域医療の充実に向けて）

・国は2025年（団塊の世代の人たちが全員後期高齢者になる年）を目指して、大幅な医療改革をやろうとしている。これは、毎年1兆円ずつ膨らんでいる医療費によって、国も大変な借金を抱えている。何とか、この医療費を抑制したいという中で、救急病院の入院日数を今よりも減らし、施設ではなくて在宅へ、普段の療養、介護もできるだけ自宅で、本当に悪くなったら病院へという流れをつくるという方向を国は示している。

・こうした中で、島田は平成28年度から「24時間訪問看護ステーション」をはじめ。今、健康づくり課でやっている訪問看護と病院でやっている訪問看護をあわせて、一体にして「24時間訪問看護ステーション」を病院の北側に健診センターがあるが、その3階に「24時間訪問看護ステーション」をつくる。お医者様の指示書というもの（今はタブレットでいくらでも送信できる。）に基づいて、看護師が8人体制で皆様のお宅にたとえ真夜中でも伺って医療処置をするということになる。75歳以上だと基本的には1割負担となり、所得の高い方は2割となる方もいるが。こうした入院できなくても安心して在宅へという流れのために島田市も「24時間訪問看護ステーション」をつくる。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■コミバスの件で伺いたい。広報紙と共に配布されたバスマップを見たところ、この辺は、3本バスが走っているが、温泉へ行く路線がなくなっている。路線がなくなったのではなくて、経路が変更になっている。数は少ないにしても、これを利用されている方はいる。このパンフレットが来るまでは、そういうお話を聞いていなかったの、「市は勝手なことをやるなあ。」という話になっている。今まで使うことができたものが、使えなくなるということになると、住民としては不満も出てくる。市長の政治姿勢として、「市民の声を聴いて、市民のためになる政治をやりますよ」、「情報公開は積極的にやりますよ」ということで市長は市政を進められていると思うが、それと先ほどの保育園の件も町内の人ほとんど知らないと思う。市の地所であるし、市が主体でやっている事業であるから、決まったらお知らせすればいいや、ということかもしれないが、これは今まで市長が言ってきたことと違うのではないかと私は思う。この向谷地区を市長はどのように考えられているのかも含めてお考えをお聞きしたい。</p>	<p>●コミバスの件は、再編によって便利になったところもあるし、便数が減ったところもあるし、路線が変わったところもある。基本的には全ての路線を島田駅につながるようにと、いうことで路線の改編をした。それから、利用率だとか、そういうことも鑑みた。逆に島田駅から乗り換えなしに真っ直ぐ川根温泉に行けるというような路線が新たにできた。今まで川口で乗り換えて大分待たないと川根温泉に行けなかったものが、まっすぐ川根温泉まで乗り換えなしで行けるというような便もできた。便利になったところ、路線が変わってしまったところ様々あるが、この件については、担当課の方で説明をしながら、アンケートもとりながらやったと思うが、それがそこまできていなかったということ、今お話いただいて、本当に申し訳なく思う。実は、コミバスに年間に2億4,500万円ほど予算をつけている。2億4,500万円掛けても実は便数が少ない、路線が悪い、色々使い勝手が悪いとのお話をいただく。しかし、実際に乗っている人はどれだけいるのかというと、昼間の時間帯はほとんど乗っていないという路線もある。コミバスの路線を増やして欲しいとお話をいただくこともたくさんあるが、そういう方々も来るときは市役所まで自分の車で来る。やっぱりそこに住む人たちが、どれだけコミバスを愛して、使って、皆で盛り上げていこうという気持ちがないと、そこにずっと路線を確保したりすることは難しくなっていくと思う。これを4億円掛けても、5億円掛けても、コミバ</p>

		<p>スは路線や便数を増やしたほうがよいということが、市民の皆様のご意見であればそういう方法もある。しかしそうするなら、その足りない部分はどこかで削らないとそれはできなくなる。できるだけコミバスは街中を走って駅に入っていくような使い勝手のよさということには、再編する上で気をつけ、このはなみずき通りについては、一番コミバスが集中して走る道路であるので、そういう意味では、駅に行くお客様には良くなったかなと思っている。田代の郷温泉に行くバスがここを通らなくなったということについては、事前にお話がなかったということであれば申し訳なく思う。田代の郷に行く路線については変わらない。同じように大津地区の方からは、田代の郷に行くのに何で大津地区を回ってくれないんだという意見もたくさんある。残念ながら伊太の方を走っていくので、大津の方を回って温泉に行くコミバスは通していない。それぞれの皆さんの思いをみんなあげていくと、たくさんバスを増やすことになって、ここに4億円5億円というお金を掛けていくのかどうかと、やっぱり市民の合意形成だと思う。そのためには、みんなが使う、みんなで盛り上げていくということもしていけないとコミバスは難しいなと思う。</p> <p>●向谷の市営住宅の跡地について、事前にお話がなかったということで、保育支援の課長の方からも、御意見をいただいている内容は私も聞いている。課長にも何故そこをきちっとやっておかなかったのかということ話をした。だけれども、結果として、決まったことを知ったということを知ったので、それも申し訳なく思っている。ただ、あそこの土地は、何に使うかということの中で、様々に検討した結果、今、市にとって一番必要である保育園の充実、待機児童のゼロを目指すということで使わせていただきたいということである。</p> <p>●どこの自治会であっても私はみんな同じ。島田市民等しく税金を支払っていただいて、みんなこの街を愛している。私もこの街が好きで、ご縁があって、今こうして市長をやっている。そこに分け隔てなどあるはずがない。</p>
2	<p>■待機児童の問題について、これから保育園ができることは大変喜ばしいことだと思っているが、それに対して、保育師の問題というものがある。今日の国会でも蓮紡さんが、箱物をつくっても、保育師の確保が大変だということと、賃金が低いということと、なり手が無いということで、45人の待機児童を受け入れるにあたって、保育師の問題を市長はどのように考えているのか。</p>	<p>●まさに保育師の確保が大変難しい、国会でも議論があるように、保育師の賃金の設定が国の基準が大変低くて、勤めて10年経つと頭打ちになってしまって、40歳になっても、50歳になっても給料が上がらないということが、今の保育師の給料体系。それぞれの福祉会で保育園を運営しているところで、多少の上乗せをしたとしても、そんなに倍にするようなことは、基準額があるのでできない。そうすると、こういったことは国が改正をして改善をしていかななくては、なかなか改善していかない。それぞれの福祉会は、こうした保育園をやりたいと手を上げる時には、保育師の確保について、ある程度の目途をもって手を上げてくると思う。そこを審査して、行政の土地を貸与しながら、上物は民間にやっていただくという考えを持った。島田市も当面の間は、保育を希望する方</p>

		<p>は増えていくと思う。将来的には、子どもの数が減っていく中で、その時、公立の保育園をたたむという意向を持って人数調整をしながら、民間の経営が苦しくならないように、そういうことも考えながら、中長期的なビジョンを持って、この待機児童の問題に対応していきたい。</p> <p>●一方、希望者が少なくなっている幼稚園に関しては、できるだけこども園という形で幼稚園と保育園を一緒にやってくれませんかというお話をしているが、こちらも保育の国の基準単価が安く、幼稚園が保育園に手が出せない状況で、市内では初倉のみどり認定こども園だけ。とにかく保育師の確保は課題であると思っている。</p> <p>●今、待機児童の話が出たので、もう一つお話させていただくと、小学生が放課後お母さんの仕事が終わるまでいる場所、放課後児童クラブも待機児童が非常に増えている。昨年今の頃の待機児童は4人だったので、すこし定員オーバーすれば何とか吸収できた。今年は1月時点で、120人を超える待機児童が出て、想像をはるかに超える希望者の数であった。それだけ多くのお母さんが働きに出る時代になっているということになる。これまでも空き教室を使い、校庭に新しい建物をつくって対応してきたが、根本的に間に合う状況ではなくなってきているので、市としては、教育施設は市の施設なので、かなり強い権限をもって空き教室は放課後児童クラブに使うように改良するというのを教育委員会を通じて校長会に通達を出している。一小、二小、四小、金谷小あたりは、4月に間に合うか、5月、6月までには増築ができると思う。ただ、空き教室がない、初倉や六合は、庭にどんどん建てているがそれでも足りない。このため、老人施設にお願いしたり、保育園にお願いしたり、幼稚園にお願いしたりしながらこの放課後児童クラブを増やしていかなくてはいけないという状況も新たに生まれてきている。</p>
3	<p>■市民病院と市役所、市民会館の建替えについて、人の命はかけがえのないものであるので、市民病院を優先して新しくして欲しい。よく予算の関係でと言ってストップしてしまうことがあるが、市長さんは市民病院が最優先なのか。</p>	<p>●私は市民病院が何をおいても最優先だと思っている。実は昨年の3月に、市役所の庁舎は当分の間は使い続けるという方針を出した。市役所の庁舎も築53年となっている。私の市長室も雨漏りはしないが雨漏りの跡だらけとなっている。合併を重ねて職員が入りきらないほど狭い。これは、病院が第一で、第二に島田市が稼げる街となるよう、様々な産業支援や投資をしなければいけないことがある。そちらを先にやらせてもらいたいということ。合併特例債というのが、平成32年までに造るなら使えるということがあって、建て直すなら市民会館のところしかないと思っていた。市役所の庁舎を建て直さないとした理由は、病院に247億円といったが、このうち医療機器に40～50億円かかる。建物の償還は30年払いとなるが、医療機器は5年で返す。原価償却は5年。なんでそんなに短いといわれるかもしれないが、最新の医療機器も5年も経つと古く</p>

なってしまう。だから償却年数5年で借金を返さなければならない。そうすると最初の5年は借金を返すのが大変になる。その時期に、同じように合併特例債を使って建てたら、市役所の返済も大変になる。こうしたときに、本来やるべき、投資をすべきところに投資をしなかったらこれはまずいと思う。病院を建てながら市も発展していくために必要な投資はしていく。であれば市役所のことは、5年の返済が終わってからでもいいのではないかということも思った。病院のお金が30億円も40億円もコストダウンできれば、その浮いたお金で造れるということになれば、また色々な選択があるのかもしれない。これはなかなか難しい現状だと思っている。病院を最優先にする。市役所は当面の間建てないということも昨年3月に発表したところ。

●もし市役所を建て直すなら市民会館のところしかないと思っていた。国も壊してそこに新しいものを造るのであれば補助金を出す。しかし、壊すだけだと補助金が出ない。これからの時代は、壊すだけでも補助金を出さないとダメだと思うが、まだ国の体制は次々に造られていく時代の体制のまま、壊すだけでは補助金が出ないという中で、市は単独で2億円かけて市民会館を壊すことになった。その前の昨年3月に、市役所の庁舎は当分の間は使い続けるという方針を出した。5月の当初くらいに解体が始まる。昨年11月の補正で解体の設計費用を出ささせていただいて、当初予算で解体の費用を出しているの、5月くらいには工事にかかれると思う。できれば10月を目指して、あそこを更地にして、当面の間は広い駐車場とイベント広場、災害時の避難場所として使えるようにしたい。

というのは、市役所の庁舎を建てるのには50～60億円かかるとし、市民会館を単独で建てるなら70～80億円はかかるとし、年間にホールでお客様が入るのは約30日であった。365日中30日。確かに島田に市民会館があることは、本当に誇りであったし、大勢の芸能人が来てくれたし、観光バスが連なっているも止まっていて、島田に市民会館があることは私たちの誇りだった。文化の香る島田だった。しかし、先にできたということはそれだけ先に使えなくなっていく時がくるということ。バスの停車する交通規制の問題、耐震性の問題、芸能人が来ても集客力が上がらないといった問題によって解体することとした。おおり、夢づくり会館、チャリム21にもホールがある。1,000席以上の施設はないが、こういったものは当面の間、広域で使わせていただくという中で、焼津の文化センター等を使うときに、1回50万円市が補助を出すということにさせていただいている。商業高校とか色々、市民会館を使って色々やってきたけれども、よそに行かなければならなくなった時に、1回50万円という補助金を出しながら、それをお願いしている。

4-1	<p>■向谷三丁目に老朽化した危険な住宅がある。台風の時などは屋根瓦が飛ばされてガラスが割れるのではないかと心配をしている。こういうものは市としてタッチできないものか。(写真の提示あり)</p>	<p>●この写真を見る限り、国の法律が改正されて、放置しておくところに被害が及んだり、そばを歩いている通学途中の子どもたちが怪我をするかもしれないという空き家を、特定空家と認定して、1年以上人が住んでいなければ、またこういう状況であれば、これは更地であるのと同じにみなして税金を6倍かけるという法律ができた。更地の場合と上物が建っている場合とでは、上物が建っている場合には6分の1になる。固定資産税が。こういう状況だと更地と同じだけ税金をかけますよという法律の改正があった。今、こうした特定空家の認定を市としても進めているところ。これが1年以上放置されているということが(調べた時点から1年)わかれば、持ち主に解体することを勧告することができる。それも無視された場合で、どうしても環境上悪い、被害が及ぶ恐れがある場合には、行政が取り壊すことができるという改正になった。その取り壊した代金については、所有者に請求するという事になっている。この建物や土地の持ち主ははっきりしているのか。</p>
4-2	<p>■所有者の名前は挙がっている。別の町内にお姉さんがいて、その人のところに私が行ってきた。何とかしてくれと。本人は行方不明だということであった。</p>	<p>●役所の方でも、このくらいになっていけば、当然認知していると思う。こういう特定空家を解体することができるという条例を制定した市もある。ただ、個人的な財産で、こういう状況だから取り壊すといった時に、本来はその費用は本人(所有者)に請求しなければいけないが、払わない、いないということになると、市民の税金で取り壊すということになって、そういうケースが増えてくると公平ではないのではないかという意見もあって、基本は持ち主の方に取り壊していただくということを一番最初にはやりたいと思う。この特定空家法ということで、市も対策に乗り出している。</p>
5-1	<p>■先ほどの話に戻るが、向谷をどう思っていますかということ、は、保育園の問題、役所の地所で、役所がやることだから挨拶にも来ないのかなということは役員会でも話が出た。自治会になって役所に書類を持って行ったときに、この1丁目から4丁目のところは自治会であるという認識で話をしてくれる人と、そうでない人がいる。そういうことを、市としてどのような教育をしているのかなということを聞きたい。というのは、この保育園の保育支援課の課長さんと係長さんが見えて、私(自治会長)のところに来て、(向谷)二丁目の町内会長さんを紹介してくださいと言うので、なんで?と聞いたら、二丁目さんにだいたいお世話にならなくてはならないと。それで私は言った、それはちょっとおかしいんじゃないのと。自治会の役員さんを全部紹介するから、19日に役員会をやるから来てくれますかと。それで呼んで、話をした。そういうことがあって、自治会にな</p>	<p>●早く建てられる手法はないかということだが、例えば初倉も建てる時には、私の地区の公民館も空港隣接補助金という空港ができることによって、真上を通してテレビも聞こえないほどうるさいということで、県の補助金をもらって、いくらか足してやるということだったが、積み立てのほかに建てる時に一軒あたり15万円ずつ集めた。そうして何とか建った。空港隣接だとかあるいは、コミュニティを造る時に施設に対する補助金があったという時代もある。今は市単独の補助金、宝くじの補助金くらいしか使えるものがない。そういう中で、どうすれば早くできるかということだが、場所によっては、公会堂や公民館の建っている土地を地元の方が提供して、土地は提供してくれて、例えば三角形の土地で使い勝手が悪いのでいいよと言って使っているのが、初倉の中河で、上物は皆さんの積み立てで造ったところがある。金谷の方でも地所を提供してくれる人がいて、その上に昔から公会堂(公民館)が建っているというところもある。しかし、それ以外はみんな自前の地所に建てているか不動産屋さんを通して土地を購入して何とか建てて、これまでの貯金だけではな</p>

<p>ることがどれほど大変なことかということが分っていない。4つの公会堂を維持するために、毎年70万円くらい掛かる。四丁目の公会堂も借地。年間22万円。二丁目の公会堂も7万なんぼの市からの借地。その周りは全て役所の地所。ここ（四丁目）の周りも全部役所の地所。何か向谷が変な関係になってしまっているなというのが我々役員の考え。自治会館を建てるということが、私は4年目だが、一つになるには自治会館を建てるしかないということで、800円いただいている町内会費をいくら貯金できるのか。24年に50万円。25年に50万円。25年の12月に80万円。27年に100万円。こうして280万円貯めた。自治会館の建設積立金というものを、四丁目は平成16年（自治会館になる前から貯めていた。というのはこの老朽化があるので、建て替えなければならないという町内会長の考えか、初代の自治会長が四丁目の出なので、こういうことを想定して積み立てを始めたのかわからないが）今現在、1,600万円。三丁目が300万円。二丁目が150万円。一丁目が187万5,000円。資源回収をやっていて、一丁目が100万円。二丁目が11万6,000円。三丁目が48万8,000円。四丁目が300万円。合計で2,726万1,124円。それと町内会費で積み立てた分を入れて3,000万円。花みずき中央の話が出たが、我々はすぐに積み立てを始めて10年間で3,000万円貯めた。どこの自治会も30年くらいかかっていますよというお話もあったが、そういうことではなく、どうしたら早く建てられるのかという手法を教えてほしい。初倉も六合も県とかの補助金をもらってコミュニティを建てている。第一小学校区の自治会が5つあるが、河原町、稲荷町、三ッ合町、向谷元町、向谷町、毎年2回自治会長が集まって話をするときに、コミュニティを建てようと。昔からの向谷にいて、役所の係長さんが詰めてやるぐらいの規模があるよと。そういう話をいつもする。先週の土曜日にも話をした。そういうことで、何か良い手法があったら教えてほしいなど。お金だけは市長さんが言われるように一生懸命貯めている。これは自治会長の使命として、やらなければならないことかなとそんなふうに思う。</p>	<p>くて借り入れもして造っているというところもある。またご相談にしっかり応じていきたいと思うが、基本的には市が単独で出している補助金とか、宝くじ等の公会堂の建設に係る補助金とか、そういったものしか今使えるものがない中で、皆さんがそれぞれのところで、地域の大きさに合わせて公会堂（公民館）を造っているのが現状。おっしゃることはよくわかるし、この第一小学校区の5つの自治会長さんが集まってコミュニティが欲しいと言っているそのお気持ちもわかる。よく旧市内の全体を対象にした公民館が欲しいという話も出る。なかなか用地もないし、建物もつけれないという中で、私としては現在ある建物、地域交流センターというものを、本当の意味で公民館機能になるようにするには、あそこに入っている朝日テレビカルチャーが契約で入っているので、その見直しの時期が来ないと全体を市民のための施設にというのが難しいということもある。そういうことも色々考えながら、市の中心の中にコミュニティ組織ができることで、皆さんの活動が活発になれば、それはありがたいことだと思うし、これからも相談には必ず乗るので、ただ、今の現状はこういう状態だということもご理解いただけたらありがたいと思っている。</p>
<p>5-2 ■ 4つの公会堂を一斉に建て替えようというって、4つ960万円をもらおうと思って、2つくらい分を特別に出してもらえないか。</p>	<p>●この地域の人口規模と世帯数で全部合わせて960万円。そのところが難しい。</p>

5-3	<p>■自治会ではなくて、それぞれが建て替えたよとしたら。</p>	<p>●50世帯以下だと720万円の上限額がある。基準の床面積は72㎡。そこに大きいものはなかなか造れない。でもそれで建て替えるということであれば720万円を限度に出るということは大丈夫。600世帯以下だと960万円。今ある使わないものを、土地を売って資金にするということもあるかもしれないし、いろんな方法を一緒になって考えさせていただきたい。</p>
5-4	<p>■法人化しているところが一つある。一丁目は法人化されている。法人化もどんなふうにしたら勉強不足で申し訳ないが。そういうことも教えてもらいたい。現実問題、この大きさ。50人集まったら避難どうしますか。防災の。そういうことを考えると、現実的にとにかく早くやらなきゃ、明日来るかもしれないようなものに何もしていないということがどうか。一時避難所がここで、現実問題、集まっても本当に大変だと思う。</p>	<p>●一時避難所は、避難地の近くでほしいは野外になっている。ご近所の人たちが集まって安否確認をするといった場所はここではないと思う。この公会堂も、こんなに広い広間があるところはそんなにはない。</p>
5-5	<p>■自治会になって、組長さん全部。4つに分けた規模が一つの町内会になる。</p>	<p>●稲荷町なんかもいっぺんには入れなかったと思う。それぞれのところで大きさはいろいろだが。</p>
5-6	<p>■稲荷町は失敗した失敗したと言っている。</p>	<p>●これの2倍、3倍なんてところは、よっぽど大きな自治会でないと思う。この一部の広さという意味で大きいと思う。2階建てとかではなく。</p>
5-7	<p>■私は自治会館は平屋だと思っている。床は床暖房を目指している。</p>	<p>●素晴らしいと思う。他のところでもあるが、エアコンを新しくとか、備品等の補助金もあるので使っていて大いに結構なのだが、エアコンなんかも結局は電気代となって自治会の運営費の中にかかってくる。500万円、600万円のエアコンをつけたいというところもある。希望は希望でいいが、それを付けたら後で維持管理するときにまた大変になる。家庭用のエアコンをいくつか付けたほうがいいんじゃないですかというお話をさせていただくこともある。自治会によっては、100円ずつ入れながら、切れたらまた100円入れてというふうに使っているところもいくつかある。</p>
6	<p>■2月の自治推進委員連絡会議の市長の市政報告のまとめた資料を見させていただいて、その7ページの上から5つ目あたりに係ることだが、去年の7月に自治会連合会の視察研修に自治会長の代理として参加させていただいた。大阪の豊中市と滋賀県の草津市にお邪魔して研修をさせていただいた。そちらの市というのは、コミュニティを小学校区で取り組むということで、私も初めて聞いて目から鱗というような感じがしたが、市長はこれから、そういう取り組みだとかをしていかれるのか、そういう方向性を教えていただきたい。そういうものを進めていくうえで、箱物といういろいろな言われるが、そういう環境をつくっていただきたい。現状は自治会同士の防災の関係の打ち合</p>	<p>●小学校の建て替えは、第四小学校、神座小学校、第一小学校は喫緊の建て替えるときの最優先の方に入ってくる。第四小は体育館も耐震性がない。そういった順位の中で、まだ建て替えの時期とかは決まっていないが、一校当たり相当な金額がかかるので、建て替えの時期が迫ってきたときに、すでに新しく作った学校には、どこも地域連携室というものを造ってある。きちっと区分けして、鍵もかかって、通常は市民が外から入って、そこと学校の校舎とはきちっと鍵がかかるようになっていて、行ったり来たりできないようになっている。昼間には赤ちゃんのいるお母さんたちが集まっていたり、午後は地域の方々が語り合っていたり、夜は研修会に使ったり、ほぼ公民館機能に等しいような形で使っている。第一小学校を建てるという時には、そういうこともできる。今、第一中学校の方には地域連携室がある。ここは皆さんに自由に使</p>

	<p>わせをするときには、第一小学校の音楽室を借りているが非常に使い勝手が悪い。制約があるとか。何とかその辺を改善していただきたいと思う。そして、第一小学校の校舎の建て替えの話聞いたが、そういうことをやられる時には、是非公民館との複合施設のようなものにしていただきたい。管理上の問題とかがあると思うので、その辺の区分けはきちっとして、造っていただければと思う。もし公民館を使っていない時には、小学校の方で使えるとかの融通を付ければ使用頻度も上がるし、いかがかと思う。</p>	<p>っていただく場所なので、地域連携室は一部屋だけではないので、そちらも使っていただきたい。公民館との複合施設ということになると、管理や法律上の問題など難しいことがおきてくる。しかしながら、27年度に完成した川根小学校は、市立図書館との合築となっている。市立図書館と学校図書館は法律が違うので、なかなか難しいが、一般の図書館から学校に入れないようにしてある。学校からは自由に図書館に入れるようにしている。そういったことを考えながら特別に複合施設を建てている。これから行政が何か施設を造る時には、複合施設、これも公立の複合施設だけではなくて、民間との複合施設とあわせて。例えば東京などでは、予算がないため市役所を建てるのに、上をマンションにして、そのマンションを売って役所を建てる経費を賄っているという市もある。これまでとは違う発想の中で、どうやりくりするかということを考えながらやっていく時代になったので、第一小学校の校舎を建て替えるという時には、また地域連携室なり地域に貢献できる部屋は必ず造っていくことになると思う。</p>
7	<p>■今、稲荷町に防災センターあるが、小さな会合、スポーツ少年団の皆さんがそこを利用して会合したり、空調設備とかが私が使っていたころはなかったのでも今もないと思うが、便所も昔の便所で、汲み取り式になっている。実際に使い勝手が悪い。あれも30年くらい経っている建物だと思うが、その建て替えの時には、是非そういうことも考慮しながら、小さな会合ができるくらいの部屋をお願いしたい。</p>	<p>●六合にもこういった防災センターがあって、やはり倉庫になっていたり、2階を会合の施設にしたりしている。市の施設でまだ汲み取り式のところがあるという件についてはわからないので、早急に調べる。防災センターということであれば、その機能を発揮できなければ困るので、そのことも合わせて、ここは私の方でもう一度点検をしてお話を自治会長さんの方に返すということにさせていただきます。【検討事項】</p>

※ 回答は全て市長から回答した。

#### ④当日の様子



⑤検討事項に対する対応（報告）

質疑応答番号 検討事項番号	検討内容（市長の発言）	市からの回答（対応状況）
7 検討事項	<p>●六合にもこういった防災センターがあって、やはり倉庫になっていたり、2階を会合の施設にしたりしている。市の施設でまだ汲み取り式のところがあるという件についてはわからないので、早急に調べる。防災センターということであれば、その機能を発揮できなければ困るので、そのことも合わせて、ここは私の方でもう一度点検をしてお話を自治会長さんの方に返すということにさせていただく。【検討事項】</p>	<p>■島田市西部コミュニティ防災センターは、昭和58年3月25日に設置され、災害時における防災拠点の機能を有し、可搬式動力ポンプ、発電機、備蓄食料、飲料水などの備蓄資機材を保管しています。平時には、交流施設として地域住民の皆様等に活用をいただいております。防災資機材倉庫以外については、平成26年度から稲荷町の皆様に鍵の管理をお願いしているところです。</p> <p>なお、ご質問のありましたトイレにつきましては、水洗式となっております。</p>